



くわの扱いもいつの間にか一人前に



友達との農作業。机上ではできない勉強



到着した生徒たちは農家の皆さんと対面。班ごとに受入農家へ



有機農法の畑でじゃがいもの収穫をする生徒たち



生徒たちのバスを見送る農家の皆さん



体験後の解散式。生徒たちの表情が充実した旅であったことを物語る



自ら収穫した野菜で作った夕食。他では味わえない格別な味

一般的なプログラムの流れ【1泊2日】

- <1日目>
1. 参加学校が市に到着
 2. 受入農家との対面式
 3. 受入農家のマイカーなどで生徒たちが各農家に移動
 4. 各農家で農作業体験
 5. 夕食準備／夕食／入浴
※夕食の準備は生徒と農家が共に行う
 6. 夜のプログラム
※農家別に企画。季節の行事や星空観賞など
 7. 就寝
- <2日目>
8. 起床
 9. 朝食準備／朝食
※朝食の準備は生徒と農家が共に行う
 10. 部屋の片づけ
 11. 受入農家との解散式

や旅行会社との連絡・調整などは協議会が行います。

友好都市・江戸川区の中学生が農家民宿を体験

7月24・25日の2日間、友好都市の東京都江戸川区から松江第四中学校2年生72人が本市を訪れ、農家民宿を体験しました。

受け入れ初日に行われた農家との対面式では、やや緊張気味に見えた生徒たちでしたが、農作業が始まる頃には表情が緩み、伸び伸びと作業に励んでいました。

農家民宿では、農作業だけでなく、夕食や朝食の準備などの家事も受入農家と一緒にを行います。この日、自分たちの手で収穫し、作っ

た夕食は忘れられない味。生徒はもちろん、受入農家にとっても賑やかな夜が更けていきます。

安曇野が第二のふるさとに

二日目、朝食を済ませた生徒と受入農家は解散式へ。解散式では、生徒から農家の皆さんにお礼の歌がプレゼントされました。生徒たちの澄んだ歌声から感謝の気持ちが伝わってきます。今回の農家民宿は1泊2日のプログラム。短時間の体験でしたが、生徒と受入農家の間には確かな絆が生まれていきました。安曇野を後にするバスの窓から大きく振られた手が印象に残ります。

心を育てる旅 農家民宿

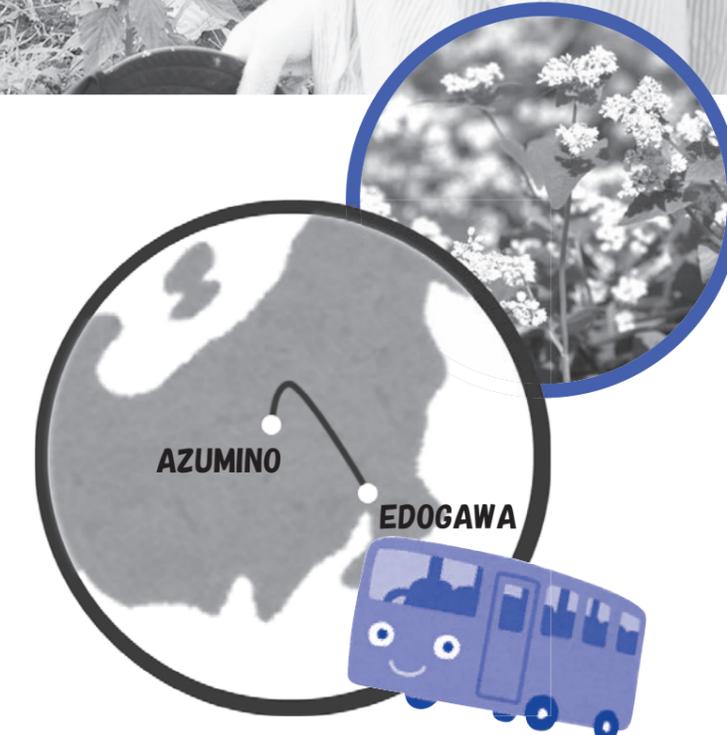
都会の喧騒から離れ、農山漁村地域で自然・文化・人々との交流を楽しむ滞在型の旅「グリーンツーリズム」。

グリーンツーリズムの代表的なスタイル「農家民宿」では、旅行者自身が農家と共に農作業や食事などを体験することから、一般的な観光旅行に比べ、心に深く残る旅になると言われています。近年、都市圏の学校を中心に農業や自然の大切さなどが学べる農家民宿を行う学校が増えています。

市農家民宿連絡協議会が発足

心と身体を育む「農業」が持つ教育力を生かすとともに、市の農業の魅力を広く発信しようと市内農家の皆さんなどで構成する「市農家民宿連絡協議会」が本年4月に発足しました。

市では、これまでも友好都市や地域の交流事業として農業体験が行われてきましたが、本協議会設立により、市全域で統一した基準での農家民宿が新たにスタートしました。現在の受け入れ対象は、都市圏の中学生・高校生で、学校



特集◎農家民宿事業

農家に学ぼう

農家に泊まり、一緒に働き、食事をする。農家生活から学ぶ、自然や食べ物の素晴らしさと感謝の心。